

長谷堂城跡公園はみどころいっぱい

サクラの古木

全域にカスミザクラやシダレザクラ・ソメイヨシノの古木がみられます。特に山頂広場の南斜面にある、春日神社前のシダレザクラは優雅に咲き誇ります。



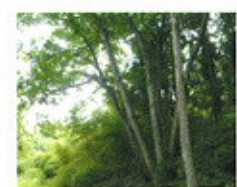
エゾエノキ

山頂や園路にみられます。本種は国蝶オムラサキの食樹木です。「ぜひオムラサキを発見してください。」



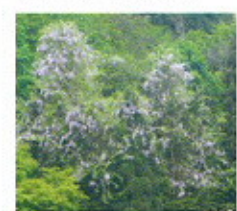
ケンボナシ

園路のところどころにみられます。初夏に小型の白い花が咲き、秋に直径数ミリの果実が熟し、梨のように甘くなり食べることができます。



フジ自生地

本沢川に面した急斜面にはフジの古木が多数みられます。5月頃に淡紫色又は白色の花を房状に垂れ下げて咲きます。



おすすめ周遊コース(約40分)

八幡崎口(スタート)

- ↓ 【約5分】
- ① 帯曲輪 [段々畑状の平坦面]
サクラ類 [オオヤマ・シダレ・ヤエ]
- ↓ 【約1分】
- ② 土塁 [北からの敵を防ぐ遺構]
- ↓ 【約3分】
- ③ 曲輪 [兵士の居留場]
シャガ [山城特有の植物]
- ④ 横矢掛り [敵を狙い撃ち]
- ↓ 【約3分】
- ⑤ 虎口 [主郭への入口]
山頂広場
- ↓ 【約1分】
- シダレザクラ [長谷堂城跡一番の銘木]
- ↓ 【約3分】
- ⑥ 二重横堀 [堀と土塁の防御施設]
- ↓ 【約7分】
- ⑦ 切岸 [人工的な急斜面]
- ↓ 【約15分】
- 八幡崎口(ゴール)



長谷堂城跡の遺構 ①

帯曲輪群
傾斜地に段々畑状に平坦面が連なる防御施設です。城郭の北西部に位置しており、上杉軍の菅沢山直江本陣跡のちょうど正面に当たる場所につくられています。



長谷堂城跡の遺構 ②

土塁
敵の攻撃や侵入を防ぐための土のことで。この土塁は城郭北側の峰筋に位置し、比較的防御施設の少ない八幡崎口から攻める敵を意識していると考えられます。



長谷堂城跡の遺構 ③

曲輪
山の傾斜面を削って平坦に造成された区画のことです。建物を構えて寝泊りしたり、櫓を立てて防備したりする機能を担っていたと考えられます。



おすすめ周遊コース

- おすすめ周遊コース
- 曲輪
- 堀・土塁
- 古くからの道 (わかりにくい部分もあります)
- 新しく整備した道
- 神社・仏閣
- 水堀跡

長谷堂城跡の遺構 ④

横矢掛り
敵に対して、側面から矢や鉄砲などを放って攻撃ができるように、通路を屈曲させ、その両側に部隊を配備する曲輪を配置した防御施設のことです。すぐ上は山頂広場となります。



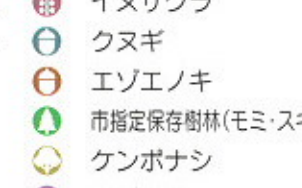
長谷堂城跡の遺構 ⑤

虎口
虎口とは曲輪などの各施設への出入口のことです。長谷堂城には、四角の区画を置く枡形虎口や土塁・曲輪などを屈曲させてつくる畷違い虎口があります。写真は山頂広場に通じる、一段低い四角の区画を置いた枡形虎口です。



長谷堂城跡の遺構 ⑥

二重横堀
下から攻め上がってくる敵兵を食い止めるため造られた堀と土塁です。写真は南西部に位置するもので、上段と下段にそれぞれ堀と土塁を配置した二重の構造となっております。



長谷堂城跡の遺構 ⑦

切岸
人工的に斜面を削って造成した、崖状の急斜面の防御施設です。削った土砂を盛って平坦な曲輪をつくることもあります。写真の切岸は高度差が10にもある、長谷堂城では最大規模のものです。



長谷堂城跡の遺構 ⑧

水堀
発掘調査によって水堀が確認されました。水堀は長谷堂城を一周し、場所によっては町場を囲むように二重になっている箇所もあります。



市指定保存樹林

八幡神社の境内林でモミ、スギ、ドイトウヒで構成されています。巨樹林で地域環境の向上に寄与しています。



イヌザクラ

西側斜面に数本みられます。4・5月にブラシのような白い花を多数つけるサクラらしくないサクラです。



ヒガンバナ群落

南斜面に群落が分布しています。9月に朱赤色の花をつけ、葉は花のあとに出て越冬して初夏に枯れます。



シャガ群落

曲輪や急斜面に群落が分布しています。5月上旬に紫斑白色の花をつけます。もともとは、敵が斜面を登る際にシャガの葉で滑って攻めにくいようにするため植えつけたと考えられています。



アズマシャクナゲ大株

阿弥陀堂(慈眼庵)の境内に残るアズマシャクナゲの大株(樹高2.5m葉張2.3m)。花は5月上旬に咲きます。この辺では珍しい大株です。



ケヤキの大木

南西斜面や山頂にケヤキの大木が残っています。



クヌギ

曲輪の一部に生息しております。実は代表的なドングリの一種です。

